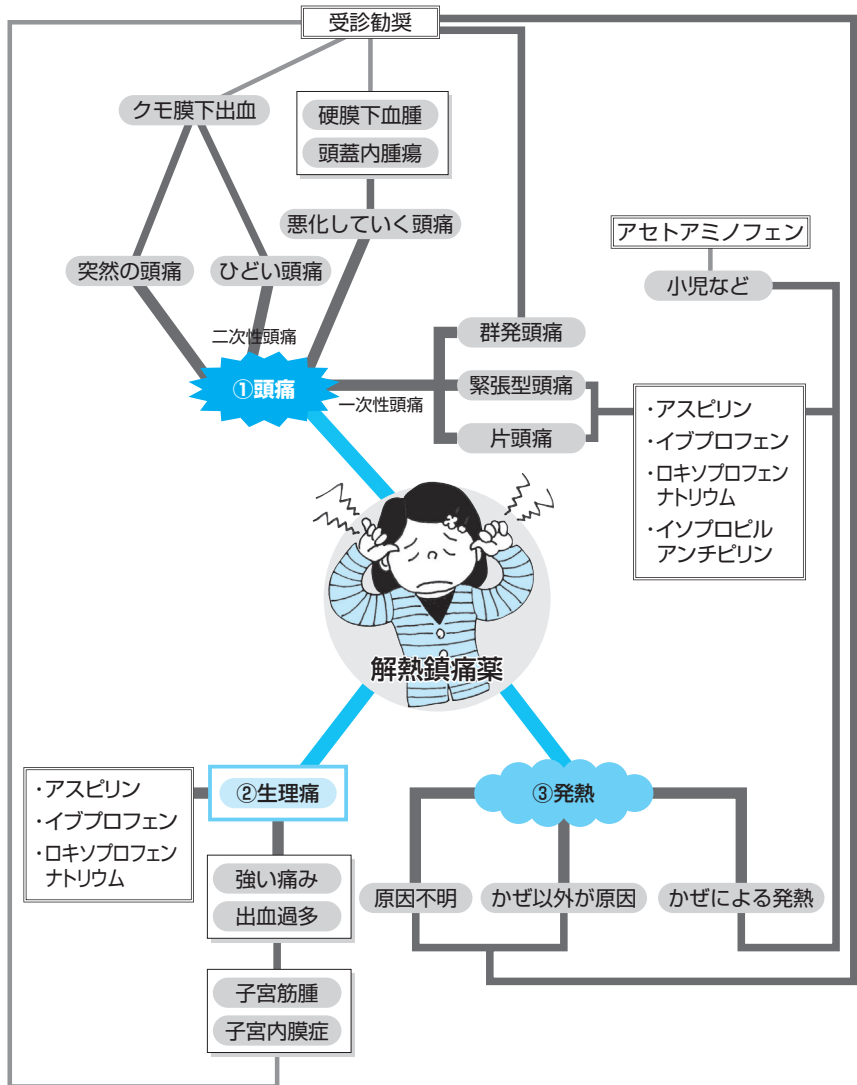


# 解熱鎮痛薬

## イメージマップ



## 解説

解熱鎮痛薬は、頭痛、生理痛、歯痛などの痛みや発熱などの症状を緩和するために使用されます。病気そのものを治すわけではなく、あくまでも対症療法であることを理解しておかなければなりません。

## ①頭痛

一口に頭痛といっても、部位や程度、発症の頻度や持続時間など症状はさまざまです。頭痛は、原因によって、明らかな基礎疾患のない一次性頭痛と、何らかの基礎疾患の症状の1つとして起こる二次性頭痛の2つに大きく分けられます。通常、OTC薬によるセルフメディケーションが可能な頭痛は、一次性頭痛のなかの緊張型頭痛と片頭痛であり、医療機関を受診しなければならない群発頭痛や二次性頭痛との鑑別の必要があります。特に注意しなければならない二次性頭痛の症状は次の3点です。

- 突然発症した頭痛
- 今までに経験したことがないようなひどい頭痛
- 時間とともにひどくなっていく頭痛

そのほかにも、頭部の打撲、視野の異常や複視（物が二重に見える）、発熱、発疹、麻痺、意識障害、薬物の服用、暖房器の使用（一酸化炭素中毒）などの有無を確認し、該当する場合は医療機関の受診を勧める必要があります。

群発頭痛はまれな頭痛で、目の周囲が焼けたり目の奥がえぐられたりするような感じの激しい痛みが数週間から数ヶ月間、繰り返し起こるものです。この場合も医療機関の受診が必要となります。

緊張型頭痛や片頭痛に対しては、小児、大人でも胃が弱い人、アレルギー体質の人にはアセトアミノフェン、それ以外の人にはアスピリンやイブプロフェンを勧めます。痛みが強いようであれば、ロキソプロフェンナトリウムやイソプロピルアンチピリンを使用します。緊張型頭痛ではイブプロフェン＋カフェインの合剤、片頭痛にはアスピリン＋アセトアミノフェン＋カフェインの合剤が有効であるという報告もあります。

## ②生理痛

生理痛は、痛みが強くなってから服用するよりも、痛みを感じ始めたときに服用するほうが効果的です。強い痛みや出血過多の場合は、子宮筋腫や子宮内膜症などの疑いがあるので、受診を勧めましょう。

生理痛には抗炎症作用があるアスピリンやイブプロフェンがお勧めです。痛みが強いようであればロキソプロフェンナトリウムを使用します。

### ③発熱

発熱は、何らかの身体の異常に対する防御反応です。最も多いのはかぜ（感冒）による発熱ですが、体内でかぜのウイルスと戦うために熱が出ているので、むやみに熱を下げるのは逆効果です。どうしても我慢できないつらい状態の際に一時的に服用する程度にとどめましょう。細菌性の下痢や悪性腫瘍、薬物中毒などでも発熱する場合があります。かぜ以外の原因による発熱の場合は、OTC薬を選択せず医療機関の受診を勧めましょう。熱の原因がはっきりしない場合も、その原因を精査する必要があるため、受診が必要です。

小児、大人でも胃が弱い人、アレルギー体質の人にはアセトアミノフェン、それ以外の人にはアスピリンやイブプロフェンを勧めます。効果がない場合は、ロキソプロフェンナトリウムやイソプロピルアンチピリンを使用します。

※鎮痛薬を乱用することにより痛みの閾値が低下し、薬物乱用頭痛になる危険性があります。鎮痛薬を毎日、3ヶ月以上連用すると起こりやすいといわれています。また、カフェイン含有の鎮痛薬を連用することにより、カフェイン誘発性頭痛を引き起こすことがあります。頻繁に鎮痛薬を購入する顧客には注意が必要です。

## CHECK

### ●アスピリンはピリン系ではない！

ピラゾン系の解熱鎮痛薬であるピリン系とサリチル酸系の解熱鎮痛薬であるアスピリンを混同している人がよく見られます。

ピリン系は、薬物アレルギーが多く見られ、販売するうえで特に注意が必要ですが、「ピリン系のアレルギーはありますか」と確認すると、アスピリンでだいじょうぶだから「ありません」と回答する人がいます。また、逆にアスピリンを勧めると、「ピリン系は副作用が心配」と言われる場合もあります。

薬物アレルギーの有無を確認するために、ピリン系とアスピリンの違いをしっかりと確認しておく必要があります。

### ●OTC薬は名前が似ていても全く成分が異なる場合が多々ある！

たとえば、医療用アスピリン製剤として有名な「パファリン」という名前がついたOTC薬は10数種類あります。そのなかで「パファリンA」と「パファリン顆粒」はアスピリンを主成分としており、「パファリンプラスS」はアスピリンにア

セトアミノフェンなどを加えた配合剤です。しかし、そのほかの多くの製品はアスピリンを含んでいません。

医療用医薬品と同じ成分であると勘違いしたり、商品名をうろ覚えで指名買いして事故につながる危険性もあるので注意しましょう。



## 販売前に確認

### ● 治療中の病気はありますか？ ほかに薬を服用していませんか？

解熱鎮痛薬の成分は、さまざまな医薬品との相互作用が報告されています。

解熱鎮痛薬を併用することによって、ワルファリンなどの抗凝血薬や糖尿病治療薬の作用を強めてしまうことがあります。また、降圧薬や利尿薬、尿酸排泄促進薬の効果を弱めてしまうこともあります。たとえばニューキノロン系の抗菌薬と一緒に服用すると痙れんを起こす危険性のある解熱鎮痛薬もあります。ほかにもさまざまな相互作用があるため、併用薬を必ず確認してから販売することが大切です。

また、解熱鎮痛薬は一般的に胃腸障害を起こす頻度が高いので、胃炎や胃潰瘍で治療を受けている人には使えないものがあります。アスピリンには血液凝固阻害作用があるので、抜歯や手術、心臓カテーテル検査などの予定のある人にも使用できません。サリチル酸系製剤（アスピリン、エテンザミドなど）は、15歳未満の小児の場合、水痘（水ぼうそう）やインフルエンザによる発熱や頭痛に対して使用するとライ症候群を引き起こす危険性があるので、服用を避けなければなりません。

### ● 喘息を起こしたことはありませんか？

一般的にアスピリン喘息といわれているもので、成人の喘息の約10%がこれに該当します。「アスピリン喘息」という名称はあっても、アスピリンだけが原因物質というわけではありません。非ステロイド性消炎鎮痛薬（NSAIDs）に分類される解熱鎮痛薬によって起こる可能性もあります。一般的には、服用後30分以内に鼻水・鼻づまりが起こり、次に咳やゼーゼーする症状が出始め喘息発作となり、呼吸困難に陥り、場合によっては死に至ることもあります。

## ！ 生活の留意点

### ● 頭痛を予防するために

**食事：**規則正しい食生活を送り、欠食を避けましょう。片頭痛の人はマグネシウム含有食物（魚介類、海藻、大豆など）を積極的にとるようにしましょう。

**嗜好品：**カフェイン入りの食品（お茶、コーヒー、コーラ、チョコレートなど）は避けましょう。

**ストレス解消：**片頭痛の予防には、休養・睡眠を十分にとり、ストレスや疲労をためないように注意しましょう。

### ● 生理痛を予防するために

**冷えの改善：**冷えは血流を悪くします。特に下半身を冷やさないように注意しましょう。お風呂に入っておなかや腰を温めたり、温シップやカイロをおなかや腰に貼って温めると効果的です。

**ストレス解消：**生理痛はストレスを背景にホルモンの状態が乱れて起こることが多いようです。ゆっくり休息をとり、リラックスすることでストレスを解消し、生理痛を軽くしましょう。軽い運動やストレッチも効果的です。

## 📦 主な商品・特徴

分類	主な商品名（例）	特徴・注意・効能効果
アセトアミノフェン製剤 （アニン系）	①こどもリングルサット、小児用パファリンCⅡ、タイレノールA など （第2類医薬品） ②アルピニーA坐剤、こどもパブロン坐薬 など （第2類医薬品）	<p><b>【特徴】</b> 作用発現時間が早い 胃腸障害が少なく、血小板抑制作用もない 小児や高齢者、サリチル酸系医薬品を使用できない人にも比較的安全に使用できる</p> <p><b>【注意】</b> 長期間にわたる服用や大量服用で肝機能障害を起こす危険性がある ①5～6回服用しても症状の改善が見られない場合は医師または薬剤師に相談 ②1回使用しても再度発熱した場合は医師または薬剤師に相談</p> <p><b>【効能効果】</b> ①頭痛・月経痛（生理痛）・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱 ②小児の発熱時の一時的な解熱</p>

分類	主な商品名(例)	特徴・注意・効能効果
アスピリン製剤 (サリチル酸系) ※エテンザミドモサ リチル酸系解熱鎮痛 薬であるが、ほかの 解熱鎮痛薬と組み合 わせて配合される→ 下記配合剤参照	バイエルアスピリン、バ ファリンA など (指定第2類医薬品)	<b>【特徴】</b> 作用発現時間が早い 胃腸障害があるが、バファリンAはダイバツ ファーHTを含有し、胃への負担を軽減して いる <b>【注意】</b> インフルエンザや水痘症に使用した場合、ラ イ症候群やインフルエンザ脳症を起こす危険 性があるので、15歳未満の小児には用いない 出産予定日12週以内の妊婦にはアスピリン 製剤は禁忌 5～6回服用しても症状の改善が見られない 場合は医師または薬剤師に相談 <b>【効能効果】</b> 頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼 痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・ 筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ 痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱
イブプロフェン製剤 (プロピオン酸系)	①アンメルシン鎮痛錠、 イブ、フェリア など (第2類医薬品) ②イブA錠、セデスキュ ア、ノーシンピュア な ど (指定第2類医薬品)	<b>【特徴】</b> 解熱鎮痛作用はアスピリンと同等で、副作用 はアスピリンよりも少ない(咽喉痛や関節痛 には他剤よりも効果があり、片頭痛予防作用 は他剤よりも劣るとの説がある) ②は3剤ともアリルイソプロピルアセチル尿 素とカフェインを加えることにより、鎮痛効 果を強化させている <b>【注意】</b> 5～6回服用しても症状の改善が見られない 場合は医師または薬剤師に相談 <b>【効能効果】</b> 頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼 痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・ 筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ 痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱
ロキソプロフェンナ トリウム製剤 (プロピオン酸系)	ロキソニンS (第1類医薬品)	<b>【特徴】</b> 抗炎症、解熱、鎮痛効果を有するが、特に鎮 痛作用が強力である プロドラッグ製剤で、消化管から吸収された 後、体内で活性代謝物質に変換され作用する ため、胃腸障害が少ない <b>【注意】</b> 1～2回服用しても症状の改善が見られない 場合は医師または薬剤師に相談 3～5日間服用しても痛みなどの症状が繰り 返される場合には、服用を中止し、受診 <b>【効能効果】</b> 頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼 痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉

分類	主な商品名（例）	特徴・注意・効能効果
		痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱
イブプロピランチピリン製剤（ピリン系）	サリドンA、セデス・ハイなど （指定第2類医薬品）	<p><b>【特徴】</b> 他剤が無効で、より強力な効果が必要な場合に用いる ほかに、エテンザミドやアセトアミノフェン、カフェインなども含有</p> <p><b>【注意】</b> ピリン系の医薬品であるため、アレルギーに注意し、原則的にアレルギー体質の人には勧めない 5～6回服用しても症状の改善が見られない場合は医師または薬剤師に相談</p> <p><b>【効能効果】</b> 頭痛・月経痛（生理痛）・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱</p>
解熱鎮痛薬配合剤	①エキセドリンA錠、バファリンプラスS など （指定第2類医薬品） ②新セデス錠、ノーシン、ナロン錠 など （指定第2類医薬品） ③ナロンエース など （指定第2類医薬品）	<p><b>【特徴】</b> ①アセトアミノフェン⊕アスピリン ②アセトアミノフェン⊕エテンザミド ③イブプロフェン⊕エテンザミド 解熱鎮痛薬を2種配合することにより、より効果を高め、副作用の軽減を図っている ほかに、アリルイソプロピルアセチル尿素、カフェイン、プロモバレリル尿素なども含有。 アリルイソプロピルアセチル尿素とカフェインは鎮痛作用を増強し、特にカフェインは頭痛に効果がある。プロモバレリル尿素は不安緊張状態を鎮静させる鎮痛補助作用があり、筋弛緩作用により筋緊張性頭痛にも有用である</p> <p><b>【注意】</b> インフルエンザや水痘症に使用した場合、ライ症候群やインフルエンザ脳症を起こす危険性があるので、15歳未満の小児には用いない 5～6回服用しても症状の改善が見られない場合は医師または薬剤師に相談</p> <p><b>【効能効果】</b> 頭痛・月経痛（生理痛）・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱</p>
漢方薬	オオクサ地竜エキス顆粒（分包）、JPS熱さましなど （第2類医薬品）	<p><b>【注意】</b> 5～6回服用しても症状の改善が見られない場合は医師または薬剤師に相談</p> <p><b>【効能効果】</b> 感冒時の解熱</p>

（花島 邦彦）